

研究成果

テキサスゲートグレーチングによるイノシシ侵入防止効果

【はじめに】

野生動物の侵入から農地を守るためにワイヤーメッシュ、電気柵などが設置されている。しかし、圃場への出入り口や園内道にゲートを設置すると通行の妨げとなり不便である。もちろん公道にゲートを設置することはできない。そこでダイクレ株式会社で開発されたのがテキサスゲートグレーチングである。これは人や車両は自由に通行できるがイノシシ、シカなど蹄のある動物はグレーチングに蹄が挟まり通行できないというものである。この施設を果樹園の入り口に設置して効果を検証したので報告する。

【試験方法】

当センター上板試験地内の約1haの果樹園(ナシ、モモ、ブドウ等)を1mの高さのワイヤーメッシュで囲い園地と町道との境界に幅3m、奥行き2m、溝の高低差8cmのテキサスゲートグレーチングを2015年3月に設置した(図1, 2)。調査は設置前の2014年10月中旬から自動監視カメラを工事予定地に設置してイノシシの行動を監視し、設置後も同様に記録を続けた。

【試験結果】

テキサスゲートグレーチング設置前の2014年10月中旬から2015年1月上旬に設置予定地の外側で延べ196頭のイノシシが撮影され、そのうち90頭が園内に侵入した。設置後は2015年6月下旬から12月下旬までにテキサスゲートの外側で延べ159頭のイノシシが撮影されたが、ゲートを通過して園内に侵入した個体は皆無であった(図3)。シカについては周辺に生息しないため効果を確認することはできなかったが、ウサギやキツネはグレーチング上を歩いて侵入できることが確認された。

【おわりに】

テキサスゲートグレーチングのイノシシ侵入防止効果は高く、現在のところ侵入例は1例もなかった。この施設は土木工事を伴うため、今後は公共事業として農道や集落全体を防護柵で囲い、出入り口に設置するなどの利用法が考えられる。

(農産園芸研究課 果樹担当 小池 明)

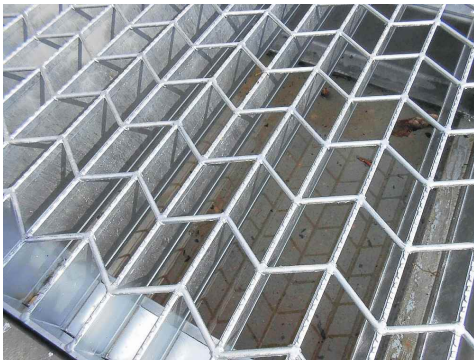


図1 テキサスゲートグレーチング



図2 設置状況(奥が果樹園,手前が町道)

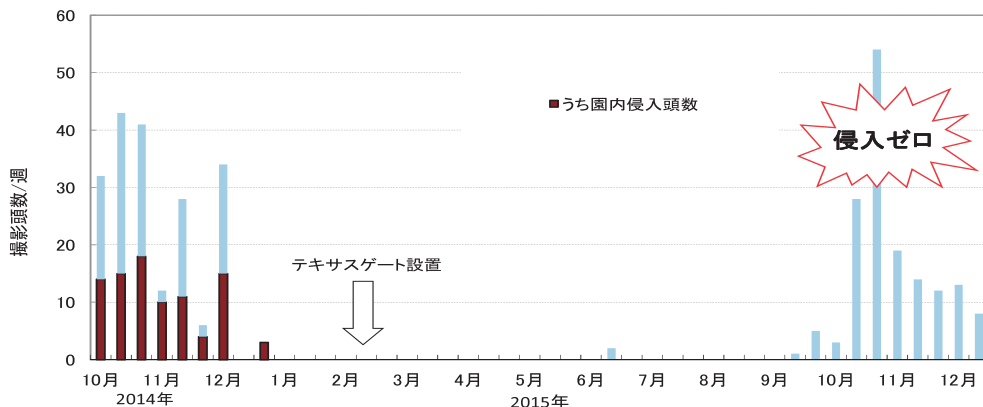


図3 テキサスゲートグレーチング設置前後におけるイノシシ撮影頭数